

みんなの 町議会

広島県
神石高原町

第61号

令和2年1月15日

見えてきた 新年度の方向と課題 …	2
補正予算質疑……………	4
町政のココを聞く……………	6
こんなことが決まったよ……………	16
ありゃあどうなったん？……………	17

成人式！ 未来へ挑戦！



と課題

12月定例会

12月定例会は、12月6日から13日まで開かれました。提出された令和元年度一般会計と特別会計の補正予算を含め、31議案を慎重審議し、すべて原案通り可決しました。

一般質問では10人が町長・教育長に行政課題などについてたずねました。

挑戦 公共交通体制の整備

ふれあいタクシー

制度の見直しで
財源の確保

ふれあいタクシー
便利だけど財源は
大丈夫かしら。



続けていける
様に私たちも
乗り合いとか
しないかね。



課題

挑戦 超高付加価値農業の実現

町PR事業

浅草の
まるごとにつぼん

町のPR事業って
どうなるんだろう。



まるごとにつ
ぼんは見直す
そうよ。



課題

明けて
おめでと
うござい
ます。



神石高原町議会
議長 松本 彰夫

町民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお喜びを申し上げます。さて、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。

住んで良かったと実感出来るようなまちづくりに向けて議会活動を展開したいと思います。神石高原町の発展と、皆様のご健勝を祈念して新年の挨拶いたします。

す。めでたい事ですが、このことにより、東京・首都圏への一極集中が加速するのではないかと懸念もしています。本町の課題である、人口の減少、少子化・高齢化にあらためてどう取り組むか問われています。町民の代表である町議会は、執行機関と切磋琢磨しながら、

議員一同全力で取り組みます



見えてきた 新年度の方向

★ 災害復旧最優先

新規投資の凍結

★ 補助金などの見直し

活動内容により検討

★ 8つの挑戦の総仕上げ

挑戦

世界を相手にできる人材づくり

英語教育の推進

成果

学校現場での
資格取得の増加

英語教育の成果は
でとるんかのう。



4割を超える中
学生が、英検3
級以上をとって
卒業しているみ
たいよ。

挑戦

福祉サービスの充実

保育料無償化

確定

国の制度と町独自
の施策の一体化

保育料って
どうなるの。



実質負担は
減るみたい。

挑戦

地域活性化チャレンジ

ビジネスコンテスト

予定

町は廃止。
(財)チャレンジ基金で
検討

起業の芽は
育っているか!?



ファンドでの
支援を充実さ
せるのかな。

全会一致

補正予算をチェック



町予算総額

補正予算 1億1403万円 補正後予算 159億5272万円

おもな補正事業

- 施設維持管理経費 特別会計** 補正額 1096万円
 高蓋地区配水管布設工事など
- ふるさと納税指定交付金** 補正額 720万円
 チャレンジファンド運営 580万円
 自治振興会活動経費 100万円 など
- 三和ふるさと活性化センター管理運営経費** 補正額 2778万円
 高原の風などの改修

定住促進

保育料無償化制度

林議員 国の保育料の無償化で、従来からある町の助成である第2子以降の保育料実質無償化はどうなるか。

福祉課長 国の無償化とあわせ従来の制度も継続する。

保育センターの家賃

横尾議員 神石の保育センターの施設修繕費が予算計上してある。今までも施設修繕は町が行っているが、家賃はどうなっているのか。

産業課長 全農が管理をしており、使用料として和牛の振興助成金、年120万円いただいている。

チャレンジ基金

小川善久議員 ふるさと起業家支援プロジェクトとは。

まちづくり推進課長 総務省が行っている事業で、起業家を支援するもの。チャレンジ基金が認定したものが対象となる。

小川善久議員 フェアトラベルジャパンのふるさと起業家支援プロジェクトGCFとは。

政策企画課長

GCF(ガバメントクラウドファンディング)とは町のホームページを不特定多数の方に資金支援をお願いする制度。寄付金と同額を国が補填し、集まった資金の2倍の金額を町から企業家へ支払うことができる制度だが、チャレンジ基金と起業家との協議で今回そういった規定は使っていない。

生活基盤整備

道の駅リニューアル

木野山議員 本格オープンまでに、北側の空きスペースの有効活用など改修すべき箇所がある。

産業課長 議会から提言のあった駐車場や、看板設置については検討する。

高原の風改修

横尾議員 182ステーションにある「高原の風」の改修工事1900万円の内訳で、設計と改修工事が同時に予算計上してある。設計の後に工事の予算の計上をするべき。

積算は誰がしたのか。

副町長 言われていることはもっともだ。182ステーションのり

ニューアルオープンと合わせたので、今回の補正で計上した。

産業課長 専門家の意見を参考に産業課で積算した。

休業補償

横山議員 道の駅リニューアルによる休業補償は、今後の状況を見てからでも遅くないのでは。

副町長 町の政策でリニューアルをしたので補償は町がするべきと考える。

出荷者への休業補償は

久保田議員 産直市場の休業補償を104万円補助しているが出荷者に対する休業補償は。

産業課長 事前に周知して行ったため補償はない。

ふるさと納税

赤木議員 ふるさと納税の収入見込みの補正があり、すでに予算として計上している。大丈夫か。

まちづくり推進課長

すでに見込みを超えているものもある。到達する見込みがあり計上した。

国の施策への経費負担

木野山議員 マイナンバー制度に伴う備品購入は殆ど一般財源だ。財源確保のため国や県と交渉は。

住民課長 国の制度で定額補助となっている。

町長 国の施策で地方の負担が嵩むものは、しっかりと要望していく。

マイナンバーカード運営経費

林議員 タブレットパソコンなどは、どんな使われ方をするのか。

住民課長 通常は申請時に役場にきて頂いているが、普及率をあげるため老人クラブなど団体が集まる所に向いて受付をするため使用する。

豊松山村広場災害復旧

林議員 崩土の土質が悪く再利用できないため、当初の予算より増額した。当初の査定にチェックミスがあったのでは。

まちづくり推進課長

土質は、経験値で使えるであろうという判断のもとに、再利用するという計画であった。



豊松山村広場 三壘側の法面崩落現場

そりゃあいけまあ

企業誘致を目的として
ボーリング補助
900万円

議会

地元への説明が不十分
計画が明確でない
慎重な対応が必要

執行側

原案の修正
~~900万円~~

企業誘致

木野山議員 企業誘致目的で水源確保に900万円の補正予算措置が成されている。地元で説明し同意を得るのが先では。

副町長 誘致と地元説明は同時進行で行う。企業誘致は慎重にやりた

町長 地元の了解が得られなければ事業執行しない。

久保田議員 事業計画書と地元説明は。

産業課長 11月中旬に話が来たので地元への説明はまだしていない。事業計画書も出ていない。計画書が出次第、地元説明をする。

藤田議員 町外から農業部門へ新規参入する企業への補助金は、慎重に検討し急いで予算計上すべきでない。

町長 内部で協議を行い、原案を修正する。

町政の「こ」を聞く

質疑の一部を要約してお伝えします
全文については順次更新しますので、町ホームページをご覧ください。



横山 素子 議員

問 JINプレミアム認定の意義は



答 製品の良さを一層広めたい

問 8つの挑戦のひとつであるJINプレミアム認定は、審査基準も曖昧で住民に広く知れ渡っていない。

改めて意義を伺う。

答 町長 寒暖差の大きい気候の本町で生産される農産物は良質なものと自信を持っている。

その良さを広く発信して産品に携わる「ひと」のもの「こと」をテーマにブランド化して一層広めていきたい。

問 ブランド化は生産者の所得の向上と担手の確保、農地の保全につながるという意味がない。

現状はどうなのか。

答 政策企画課長 ブラ

ンド化により、以前より売り上げは伸びたと聞いている。一定の成果が出て来ている。

問 審査基準が曖昧だが、見直しは。

答 町長 現段階では見直しは考えていない。

問 今回「こ」で認定されたのが2件あるが、PRの仕方は。

答 町長 まずは、産品をPRし、そして生産から、販売までの各ステージで定期的に情報発信していく事で、商品にまつわる物語としてPR

していく事を検討している。

問 町政3年を振り返ってこの超高付加価値農業の実現についての町長の評価は。

答 町長 3年間で芽は出てきていると思う。

残り1年間で、次の段階までいけるか、職員と一丸となって進めたい。

介護予防と病気の予防の取り組みは

問 国の「保険者努力支援制度」において「保険者機能強化推進制度」で来年度はこの交付金を倍増するという報道があったが、町での取り組みと評価、現状は。

答 町長 「保険者努力支援制度」は、自治体の医療費の適正化にむ

けた取り組みに財政的な支援を行うもので、本町では、特定健診や保健指導の実施率、がん検診受診率や後発医薬品の使用促進の取り組みが評価され交付金に算定された。

「保険者機能強化交付金」は、30年度で212万円の交付金を受け、介護給付準備基金に積み立てた。今後も制度の評価指標を念頭に、本町の実情に応じた取り組みを

施していく。

問 高齢化の進む本町では、介護予防と病気の予防が最重要課題になる。来年度予算編成にあたり、より手厚い予算配分を。

答 町長 医療福祉において町民のためにならうというやり方がしあわせにつながるのか考えて、予算編成をしていきたい。



道の駅、JINプレミアムコーナー



横尾 正文 議員

問 小児科医療体制の現状は

答 状況はますます困難に

町長

問 町長は就任当初、福山の小児科医と連携することであったが、その後の状況は。

答 町長 小児科医を取り巻く状況はますます困難になっている。小児科医療については、備後圏域で集約化していく方向と聞いている。引き続き福山市医師会と連携していく。

問 糖尿病性腎症重症化予防事業の内容と進捗状況は。

答 町長 生活習慣病の改善により重症化予防が期待できる患者に対して「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を実施している。

問 「ヘルスツーリズム」の検討は。

答 町長 次期総合戦略では、観光に健康づくりを付加した「ヘルスツーリズム」が予防医療の観点からも、総合戦略に資するとの意見があるので、どう施策として取り組めるか検討する。

ラブリブリッジプロジェクト

問 農家の後継者不足対策である※「ラブリブリッジプロジェクト」の現状は。

答 町長 今のところ一件も契約に至っていない。

契約不調の原因は、受け手の体調不良や、リタイヤ農家の規模では、経営の維持が困難であるとの理由が多かったため、双方の利害が噛み合わなかった。
またまとった経営規模や複合経営型の提案を行い

たい。

分収造林の現状

用して平成27・28年に間伐育成作業を行った。植林の育成状況を見極めながら、引き続き育林作業を実施する。

が大きな問題である。9月に町内企業など16社の企業と、町内に職を求めるとのマッチングセミナーを行った。

問 旧町村時代からの「分収造林事業」が、契約に沿って行われていないようだ。

今後の対策は。

答 町長 本町の契約件数は、117件で300.5ヘクタールある。平成27年に分収造林に対する経営計画が義務づけられたため国の事業を活

問 企業誘致に関して、昨年は担当者を配属し、地元企業の要望などを把握しようだが、その後の進捗状況は。

答 町長 地元企業にとっても、人手不足

企業誘致の進捗

問 準備不足であったように思うが。

答 政策企画課長 今後はしっかり準備をしてマッチングセミナーを行いたい。

※楽天のグループ会社のプロジェクトで、安定した月額収入を得ながら後継者の育成を目指す。



管理が出来ていない 分収造林地

問 令和2年度の最重要施策とは



答 災害復旧を最優先



橋本 輝久 議員

問 令和2年の予算編成にあたり、財政的理由により縮小、延期、中止など見直しを行う事業は。

答 町長 予算編成作業中で、予算要求作業を各課で行っている。災害復旧工事を最優先し行うため、現在行っている庁舎・病院の建設を除き、社会資本整備総合交付金事業工事業や単独町費町道整備事業工事業、橋りょうの修繕事業工事業を一年間凍結する。また、第2定住団地の整備工事業を休止させるなど建設事業を最大限抑制させる。

行財政の運営

問 令和2年度の最重要施策とは。

答 町長 災害復旧工事業の早期完了と「地方創生」の取組み、「8つの挑戦」の総仕上げを最重要施策と考えている。

問 会計年度任用職員制度の導入による財政への影響と行政運営の方向性、現在の臨時・非常勤職員への対応は。

答 町長 財政への影響と比較し総額約3200万円増加するものと試算している。

臨時・非常勤職員については、適正な任用・勤務条件の確保が必要であり、各職場の業務量や今後の行政サービスに適切な職員数の確保と人員配置を行う。

問 現在の組織体制を継続し、業務遂行にあたるのか。

答 町長 新庁舎完成時までは、大きな組織体制の見直しは困難だ。可能であれば、地方創生総合戦略に掲げる子育てしやすいまちづくりの推進に向けた体制整備などを検討したい。

支所機能については、現段階では、現状を維持する。

協働支援センターの業務は

問 協働支援センターの本来の目的に沿った業務運営を行っているのか。

また、各地域の課題解決に向けた事業に、行政支援をどのように考えているのか。

答 町長 協働によるまちづくりの実践は、これまで行政も住民も経験がないことから試行錯誤の中で取組んでいる状況だ。

益々厳しくなる財政状況のもと、交付金や補助金に多く依存することなく、「多様な自主財源の確保」に積極的に取り組んでいきたい。



とよまつプラザ21内にオープンした 昭和のおもちゃ館



久保田 龍泉 議員

問 新年度予算編成の基本方針は

答 歳入に応じた歳出が基本

町長

問 新年度予算編成に臨む基本方針を伺う。

答 町長 J-INプレミ アムブランドの構築、チャレンジファンドの創設、協働支援センターを核としたまちづくり、小中高における英語教育の推進、庁舎・病院の建設を進めた。

今後は普通交付税の特例加算が本年度で終了し、来年度より大幅な減少が見込まれる。歳入に応じた歳出を基本に、8つの挑戦の総仕上げと昨年の豪雨災害の早期復旧を最優先で予算編成を行う。

補助金の見直し

問 各団体に補助金の削減を通過してあるが、その理由と削減額は、一律カットすべきでない。

答 総務課長

交付税の減少が見込まれ財源が厳しい。一律カットではなく、活動内容を見て削減する。活動費や委託料の見直しを含め2億円を目標に取り組む。

有害鳥獣処理は

問 有害鳥獣処理施設は予算計上されるか。

答 町長

ジビエ事業者との連携で、檻に入ったイノシシの解体処理を検討している。予算計上しない。

災害復旧の現状

問 9月に復旧工事の入札が執行されたが、38件不落だ。農地、水路災害復旧は急がないと来年の作付けに間に合わない。復旧は最優先ではなかったのか。

答 町長

業者と手持ちの工事を調整しているが、作付けに間に合わない。速やかに発注する。

問 9月の不落分はいつ発注か。

答 町長 一般競争入札により12月19日開札する予定だ。

問 ハード事業、新規工事は凍結して災害復旧を急ぐべきだ。

答 町長

新年度は定住団地造成など、新規は凍結して復旧工事を優先する。

高齢者予防接種

問 高齢者にインフルエンザ・肺炎球菌ワクチン接種負担を求めたが、議論の結果これまで通り無料になった。

答 町長

負担はいたさない。新年度の考えは。

保育料無償化

問 国は保育料を10月より制度改正し、0歳から2歳の非課税世帯と3歳から5歳までを無償化した。給食費については負担が生じる。

答 町長

町は第2子から実質無償化している。新年度からの対応は。

答 町長

新年度も無償化を継続する。



発表会で元気に踊る子供たち (いずみ保育所)

問 入江町政3年間の総括と今後の展望



木野山 孝志 議員

町長 答 変化を感じる。次世代へ引継ぐ予算を組みたい

問 入江町長が就任された3年間で経過した町政全般において、事業実施における総括とその成果の見通し、来年度予算編成に向けての意気込みを伺う。

答 町長 8つの挑戦を揚げ職員一丸となつてやってきた。3年間で経過し、いろんな新しい芽が芽吹き始め、何か変化が起きていると感じている。

この変化が波となり「挑戦できる。行ってみたい。住みたい。住んで良かった」と言える「町」にしたい。

令和2年度は、「明日への一歩」と題し、「次の

世代へ引き継ぐ」予算としたい。

問 ①高付加価値農業振興②地域活性化チャレンジ事業について事業成果と今後の展望は。

答 町長 ①道の駅リ

ニユーアルは本年度末3月にオープンを迎える。新設置のフードコートでは、地元産品を原料に加工・調理することで超高付加価値を付け販売強化を図りたい。

またエブライ(地縁マルシェ)への出荷強化は既存の集荷トラックを利用することで効率的に業務を行うことができた。本町の農産物の良さを「JINプレミアム」という名でブランド化を図り、より一層広めたい。

②ビジネスコンテストは、3年間で17件の提案があり一定の成果があった。

起業計画と資金は不可欠なので一般財団法人「チャレンジ基金」に本事

業を移管し計画・審査支援を一体的に行うと、より起業の掘起しにつながる。どう引き継ぐか協議中だ。

チャレンジ基金は、設立以降17件の申請があり、うち6件、5500万円を支援中だ。今後も財団と共に、本町内での創業や企業が多角化しやすい環境を整え、本町産業の発展に寄与していきたい。

またエブライ(地縁マルシェ)への出荷強化は一定の成果があったが、物販において成果が不十分との指摘があった。今後は、原点に立ち返り再検討したい。

統一地方公会計

問 本町では、平成29年度決算について統

一的な基準による地方公会計に基づいた財務4表を公開された。分析の結果と、それを今後の財政

運営にどのように生かされるのか。

答 町長 特徴として、全国の類似団体と比べ、

- ①有形固定資産減価償却率が高い。
- ②住民一人当たりの負債額が大きい。
- ③行政コスト対税収等比

率が高い。ことが挙げられる。

老朽化した施設が多く、自主財源が少なく起債などに頼った財政運営を行わざるを得ない現状が表れている。

資産の更新では、施設の統廃合を進め、計画的な維持管理が必要だ。



リニューアルされた道の駅(特産品売り場)



藤田 晃己 議員

問 令和2年度予算編成は

答 一般財源2.5%減額を目標

町長

問 令和2年度当初予算規模は積極予算になるのか、緊縮予算にするのか。

答 町長 地方創生の取り組みを進めると共に、平成29年度から進めてきた「8つの挑戦」の総仕上げと昨年の豪雨災害からの早期復旧を最優先とし、庁舎・病院建設に着手するため、予算規模としては令和元年度と同規模若しくは、それ以上になるものと見込んでいます。予算編成にあたっては、一般財源総額の2.5%の減額を目標に進めていきたい。

個別事業の展望

問 生活交通確保事業において、現状の条件で継続することが出来るのか。

答 町長 ふれあいタクシーの事業費は、制度導入初年度平成29年度は5400万円、平成30年度は7000万円、本年度は前年度並みで推移している。

地方交付税の減少など、今後の財政状況を考慮し持続可能な制度となるよう見直しを検討したい。

問 庁舎・病院建築は予定通り進めることができるのか。

答 町長 庁舎は5月、病院は8月を目途に発注を行う。

問 第2定住団地の造成は来年度着工出来るのか。

答 町長 昨年度の災害復旧を最優先するため、一時中断する。

問 チャレンジ基金の活用状況と今後の取り組みは。

答 町長 平成29年9月に財団を設立して以降、4回の支援先募集に申請者17件、申請額3億7000万円。支援決定を6件、5500万円行ってきた。今後もチャレンジ出来る環境を整えると共に、補助金に変わる支援策の一つとして財団と共に普及に努める。

問 ビジネスコンテストは今までの様式で継続するのか。

答 町長 起業や事業者、その背中を押す目的で始めた「コンテスト」はこの3年間で17件の提案があり、一定の成果があったと考えている。計画と資金は不可欠な関係にあることから「チャレ

ンジ基金」に移管し、計画から審査、資金的支援、経営的支援を一体で行っていく。

問 まるごとにつぼんへの出店はどうするのか。

答 町長 一定の成果があるが不十分であるとの指摘もあり再検討する。

問 黒木谷トマト団地の造成と入植予定者

の状況は。

答 町長 どんぐり幼稚園向かいの圃場2・4ヘクタールを4区画に造成し、1区画当たりのハウス設置面積30アール、4経営体の入植を予定。令和元年12月工事発注し2年で完成予定。先に完成する2区画は、令和元年度研修生2人の入植予定。残り2区画は令和2年度研修生の就農を予定している。



まるごとにつぼんで展示販売されている本町の産品

問 持続可能な町政運営は

答 町民の幸せ、満足度が基本



寄定 秀幸 議員

問 持続可能なまちづくりにには、町民が「住んでよかった」と実感できる、満足度の高いまちづくりこそが重要では。

答 町長 現在策定中の第2期総合戦略のテーマ「安心幸せプラン2024」では、安心して暮らせ、住んでよかったと幸せを実感できること、その実感が情報を通して町外に伝わること。その結果として、移住や定住に繋がり持続可能な社会の実現となる。「今住んでいる町民の幸せ」「満足度」が次期総合戦略の基本と考えている。

問 子育て支援のさらなる拡充が必要では。

答 町長 国の幼・保無償化が10月からスタートした。本町では、平成28年から第2子以降実質無償化制度を実施している。来年度では、保護者負担が新たに生じないように子育て支援の充実に努める。

問 おたふくかぜワクチン接種の公費助成をすべきでは。

答 町長 子育て世代の経済的負担軽減や感染症予防を図るため、新年度実施を検討したい。

問 ふれあいタクシー事業の継続を。

答 町長 持続可能な制度となるよう、見直しを検討する。

しを検討する必要がある。

教育のまち構想

ちを育むことができる学校づくりを目指している。

問 ※セカンドブック事業に取り組むべきでは。

答 町長 検討したい。

問 まちづくりは人づくりの観点から、教育は最も重要な事業である。人口減少時代における本町教育の基本的な考えは、

答 町長 創造力と郷土愛をはぐくみ、急速に変化する社会環境に柔軟に対応できる能力を養うため、確かな学力の定着・向上を図るとともに、これからの社会を生き抜くため必要な資質・能力の育成を目指している。

問 学校図書館の充実は、

答 町長 国基準に到達はしているが、同じような本や、活用できないものもあり、考えなければならぬと思う。

問 「人と自然が輝く教育のまち」をめざすべきでは。

答 町長 まちづくりの柱に、子育て支援と教育を掲げて取り組んでいる。「人と自然が輝く教育のまち」を謳いながら、教育振興に努めていきたい。



ブックスタートの実施風景

また、異文化への理解を通して、地域の人・自然・歴史・産業・文化を振り返ることのできる心を育み、人を思いやる心や、たくましく生きるための体力を培う取り組みを進めている。

地域に信頼され、学校と地域が双方向で子供たちを育むことができる学校づくりを目指している。

※3歳以上の子供に絵本を贈るのがセカンドブック事業



小川 善久 議員

問 ビジネスコンテストとチャレンジ基金は町長の思いに叶っているか

答 概ね方向性は違っていない

町長

問 ビジネスプランコンテストと、チャレンジ基金は、誰を対象として、何のために始められたか、その目的は何だったのか。

答 町長 町内の人のみならず、町外の人も対象としている。

地域資源などを活用し、起業をしてもらうことで、雇用の場が増えればと思っています。

問 ビジネスプランコンテストの審査基準では、何を審査しているのか。

答 政策企画課長 起業・事業規模・雇用の拡大をどのようにするかという、経営計画と資金計

画である。

問 議会から先進地の視察を担当課に勧めた。取り組みの違いは。

答 政策企画課長 わが町では、提案されたプランのブラッシュアップはしていない。

今後は、経営的スキルをもっている(財)チャレンジ基金にビジネスプランコンテストを移管することで、プランをより精度の高いものにしていただく。

問 起業家が気楽に相談に行けるような場所にある支援組織でないと成果が出ない。

答 政策企画課長 広島県からも財団法人の事務局体制について指摘を受けており、それを目指して只今協議中である。

問 創業資金は、財団が貸し付けをするのではなく、金融機関に融資をしていただくことが

大切である。何故できないのか。

答 政策企画課長 金融機関は、担保もないベンチャー企業には融資をしてくれない。

問 金融機関が「これなら融資できる。」というところまでプランの精度を上げる手伝いが必要だ。

財団が自らイベントを企画して、町を活性化させたり、起業者を招集することは可能か。

答 政策企画課長 財団は、お金を貸すだけが事業ではない。定款にも町の活性化事業を行うと書いてあるのでその旨を伝える。

問 町民も審査できる公開プレゼンテーションはできないか。

答 政策企画課長 財団と協議をする。

答 町長 出資とコンテストは別である。出資の審査は専門家で行う。



ビジネスコンテスト授賞式

「公開にすることで町民が共感し、協力する体制ができる。」という意見は、財団の方にも勧めたい。

答 町長 時には、ずれていると思うこともあるが、担当課がその時期の最善策を考えてくれる。私の思い描いていることをもっと時間をかけ議論をする。

問 当初の企画案が1年2年経つうちに変わってきている気がする。

役場全体で意見を出し合い、ブラッシュアップをしないと、最初の思いと違う方向に行っているように見える。

その他の質問

- ・道の駅リニューアル
- ・庁舎・病院の跡地利用

問 帝釈峡遺跡群の保全・活用は

教育長

答 関係部局などと連携し進める



林 憲志 議員

問 観音堂遺跡付近の整備や看板の設置を。

答 観音堂遺跡付近の整備や看板の設置を。関係部局などとも連携し進める。

問 縄文時代の生活史が発掘調査で解明された大風呂洞遺跡などの発掘が中断している。研究が縮小するのでは。

答 教育長 考古学、人類学、古生物学、地質学などの分野からも注目を集め、広く認知されている。これらの学術的にも貴重な資料や調査研究の成果を、社会見学や総合的な学習の中で教材としての活用や適切な保存と継承は重要。

問 遺跡と関連づけた水系の地形を利用した※ジオパーク構想での活用は。

答 政策企画課長 町観光協会がピンポイントでまわられるツアーの準備をしている。帝釈峡遺跡群のツアーも協議して進めたい。

問 神龍湖の歴史民俗資料館に説明員の配置は。

答 教育長 看板設置については、管轄なども調べながら検討していく必要がある。

問 閉鎖的な空間でもあがる学級制度をなくせば、いじめはなくなるのでは。

答 教育長 学級制度をなくすことは法律でできないが、小規模校では、複式学級など、学級を一緒にして授業することは可能。工夫した学級経営はできる。

学校でのいじめ

問 閉鎖的な空間でもあがる学級制度をなくせば、いじめはなくなるのでは。

答 教育長 学級制度をなくすことは法律でできないが、小規模校では、複式学級など、学級を一緒にして授業することは可能。工夫した学級経営はできる。

問 先生の、いじめ対応スキル向上研修は。

答 教育長 生徒指導担当者との会や道徳の研修会で教材を含めて、定期的な研修を行っている。

問 不登校自体は問題行動ではないという通知が文科省からあった。不登校児童生徒に、フリースクールや適応指導教室などでの支援は。

答 教育長 本町には適応指導教室という認可された施設はない。子育て支援センターに専門のカウンセラーを月2回置いている。子供さんからの相談活動も行い、小中学生であれば子育て支援センターのカウンセラーの先生と相談をして話をしたり、いづらか学習をすることも出来る。

問 不登校自体は問題行動ではないという通知が文科省からあった。不登校児童生徒に、フリースクールや適応指導教室などでの支援は。

答 教育長 本町には適応指導教室という認可された施設はない。子育て支援センターに専門のカウンセラーを月2回置いている。子供さんからの相談活動も行い、小中学生であれば子育て支援センターのカウンセラーの先生と相談をして話をしたり、いづらか学習をすることも出来る。

問 不登校自体は問題行動ではないという通知が文科省からあった。不登校児童生徒に、フリースクールや適応指導教室などでの支援は。

答 教育長 本町には適応指導教室という認可された施設はない。子育て支援センターに専門のカウンセラーを月2回置いている。子供さんからの相談活動も行い、小中学生であれば子育て支援センターのカウンセラーの先生と相談をして話をしたり、いづらか学習をすることも出来る。

問 不登校自体は問題行動ではないという通知が文科省からあった。不登校児童生徒に、フリースクールや適応指導教室などでの支援は。

答 教育長 本町には適応指導教室という認可された施設はない。子育て支援センターに専門のカウンセラーを月2回置いている。子供さんからの相談活動も行い、小中学生であれば子育て支援センターのカウンセラーの先生と相談をして話をしたり、いづらか学習をすることも出来る。



学術的にも貴重な資料が展示してある神石民俗資料館

不登校への対応

※ジオパークとは、「大地の公園」のことで、地域の遺産を保全し教育や観光に活用する。



赤木 俊二 議員

問 耕作不可能第1種農地をどうする

答 農地を守る仕組みを探りたい

町長

問 土地改良事業で、造成整備した第1種農地も高齢化などにより耕作が不可能になる農地がある。どう対応するか。

答 町長 平成27年に農地法が改正され地目変更にかかる登記手続きの簡略化が図られるようになった。非農地承認件数が加速度的に増加している。しかし、単に耕作放棄されていることを理由に農地転用は出来ない。担い手不足の解消や高収益作物への転換を大々的に進めていく必要がある。

問 可能な限り農地を守る必要があるが、出来ない場合は規制の緩和が必要では。

答 産業課長 農地法の改正は守れる農地は守り、整理を促進していくということになっていく。ただ現段階では法的に規制の緩和は難しい。

答 町長 農地法の趣旨に沿って、農地を守る仕組みを探りたい。

神石高原町のPR

問 本年度は、「まるごと」に「ぽん」への出店は、町単独となったその成果は。

答 必要ならば他の方法も考えるべきでは。

答 町長 浅草という立地条件の下で本町の文化や映像の発信及び物販を行っており、費用対効果では表せない成果が上がっている。しかし、一旦立ち止まって検討しなおすことも必要だ。戦略的に「神石高原町」を発信していくことは非常に重要である。

問 定住・ふるさと納税・企業誘致において首都圏でのPRは避けて通れない。計画はあるか。

答 町長 つながりを活用しながらイベントを行うなど考えている。

問 動画やSNSを活用し広くPRする必要があるのでは。

答 町長 観光協会と協議している。アイデア次第なので、しっかりと考えていきたい。

コミュニティ・スクールへの取り組み

問 平成29年3月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校運営協議会いわゆるコミュニティ・スクールの設置が努力義務化された。地域住民の声を学校教育に反映することができ、「地域全体で子供を育ていく」という意識の促

進が目的だが、わが町の取り組みはどのようになっているのか。

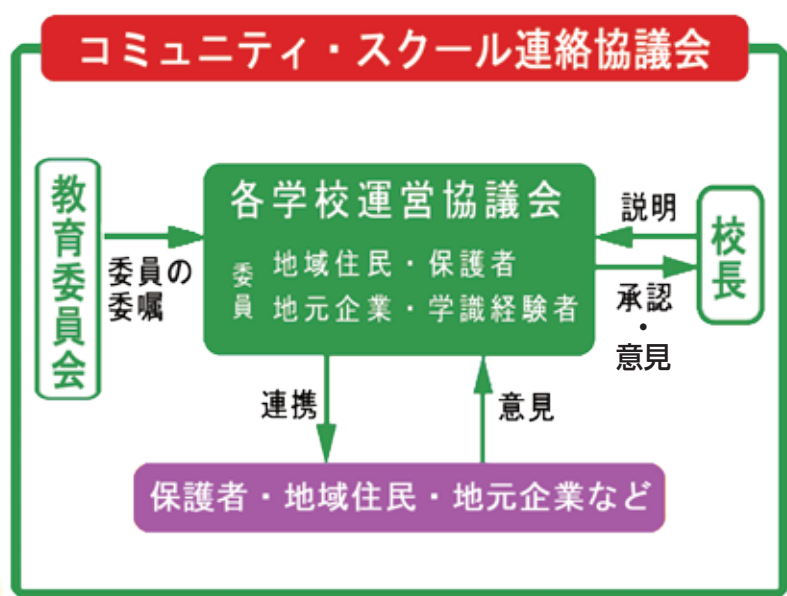
答 教育長 町内の小中学校ではまだ導入していない。本町としては、次年度から導入に向けた協議を行い、令和3年度からの実施を予定している。

地域の方や保護者の方も学校と方向性を合わせ

て子供たちの成長に關わっていけるような体制を作っていきたい。

問 具体的な組織や、加入団体などの青写真は出来ているか。

答 教育長 具体的には来年度から検討に入るが、先進地の資料収集や研修などへ参加し、準備している。



コミュニティ・スクールの概念図 (先進地例)

条例制定・改正

こんなことが決まったよ

— 主なもの —

条例の一部改正

職員の給与に関する条例

・人事院勧告により給与の微増

監査委員条例

・監査委員の事務を処理するための事務局の設置

計画の変更

過疎地域自立促進計画

・福祉の向上のため事業内容に自立支援型グループホーム整備事業や集会施設のトイレの洋式化など

工事請負契約の変更

工事名 豊松山村広場三塁側法面復旧工事
 請負金額 3163万円→6359万円
 請負者 横山建設株式会社
 工期 令和元年9月3日～令和2年3月31日

人 事

教育委員会委員任命同意

藤原 和則 さん (再任)

農業委員会委員選任同意

井上 光基 さん (上)	若林 宏明 さん (亀石)
渡邊 英治 さん (時安)	立原 孝生 さん (井関)
佐伯 知省 さん (階見)	坂井 辰正 さん (笹尾)
高原 敬二 さん (小野)	小坂 貢 さん (有木)
小里千恵子 さん (油木)	石井 満芳 さん (油木)
美田 雅彦 さん (安田)	城山 良子 さん (牧)
伊勢村正治 さん (相渡)	田邊 清子 さん (高光)

固定資産評価審査委員会委員選任同意

油木地区	宇賀 拓郎 さん
神石地区	横山 輝明 さん
豊松地区	江草 忠行 さん
三和地区	國平 正文 さん

まちの声

主なご意見を掲載します

● 東京でPR「まるごとにつぼん」は、高いブース料を払って神石高原町のPRになつていいるのですか？

若者が帰ってくる役に立っているのか疑問に思います。

若者が帰ってくる、入って来る受け皿をしっかりと作ってほしいです。帰っても働くところがないと若い者は言います。(80代 女性)

まるごとにつぼんの継続には議会としても疑問を感じ、執行側に見直しを求めた結果、来年度に、まるごとにつぼんの改修計画もあり、出店は見送ります。

若者定住には職場が必要なので企業誘致や新規就農の支援に取り組んでいます。町内企業でも人材の不足が課題となり、多くの求人があります。 議会

● 一度町長に会って話したい。(60代 男性)

「ゆづり町長室へ」や「よしのりのお出かけ町長室」の機会をご利用ください。

詳細は政策企画課 0847・89・3351

議会

議会クイズにたくさんのご応募
 ありがとうございます。
 皆様からいただいた声を受けとめ、
 前向きに取り組んでいきます。

クイズの答え

- ① 黒字決算
- ② まるごと
- ③ 帝釈

第42回議会クイズ当選者

油木地区 日谷 智子さん おめでとうございます！



退所式は新しい保育所で

退所児童にも
過ごさせてあげたい



概要	
延床面積	904.50㎡
構造規模	木造平屋建
総工費	2億9689万円
定員	45人(0歳児含)

「退所児童にも新しい保育所を少しでも使わせてあげたい。」という願いが叶い、工事は順調に進み令和2年2月中旬に完成の見込みと

【くるみ保育所新築移転】

平成31年3月から建設中の、くるみ保育所が完成します。建設地は、来見中学校の跡地で、平成30年に解体撤去して更地となっていた場所です。3月には退所児童にも新しい保育所で過ごしてもらい、その後退所式を挙行することになりました。



完成間近の「くるみ保育所」



令和元年11月13日に行われた全国町村議長会創立70周年の式典において、30年以上の永きにわたり町村議会議員として、団体の意思決定、行政監視、政策提言といった議会活動に勤しみ、地域社会の振興発展及び住民福祉の向上に尽力した功績を認められ松本彰夫議長が表彰されました。

表彰
永年功勞表彰

元気なグループ紹介だよ!



第16回定期公演「一本刀土俵入」の一幕
(令和元年11月17日)

神石高原町が合併した年、本町の名を全国に広めようと誕生したのが、「町おこし田舎芝居やまなみ劇団」です。
平成16年10月16日に第一回公演「勘太郎月夜唄」時代劇人情物語で初公演しました。以降、定期公演16回、遠征公演17回すべて人情時代劇です。団員30人みんな勤めがあり、全員での稽古は出来ませんが、準備、公演など、お互いの気持ちを大切に理解し楽しく続けています。公演には350人余りのお客

頑張ってるぜ!!

町おこし田舎芝居
やまなみ劇団



様が町内はもとより、町外からも町内観光を兼ねて来られます。公演が終わって「来年も来るよ」「来年はいつやるん」と声をかけて貰うのが、嬉しい一言です。劇団員を募集しています。申し込んでください。これからも劇団員、力を合わせ頑張ってください。ご支援・ご協力をお願いいたします。

やまなみ劇団
がんばる課 がんばる係 高橋
連絡先 0847・85・2608

発行責任者 議長 松本彰夫
住所 広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-189-1340
FAX 0847-185-4201

第43回 議会クイズ GIKAI QUIZ

空欄に適切な言葉を
をいれてください

- ① ○○○○○ 新年度の方向と課題 P2-3
- ② 保育料○○○制度 P4
- ③ 歳入に○○○歳出が基本 P9

ヒント 議会広報をよく読んでね!

●応募方法

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。応募は、1人・1通に限らせていただきます。

●あて先

〒720-1522 神石高原町小島2025番地
神石高原町議会事務局「第43回議会クイズ係宛」

●締め切り

2月10日(月) 消印有効

●個人情報の取り扱いについて

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は **3月**です

編集後記

令和2年の元旦は穏やかな晴天で明けました。今年の干支は、庚子(かのえね)。意味は、新たな芽吹きと繁栄の始まりとか。12月定例会は会期が短かったけど深く掘り下げた中身の濃い議論が出来ました。皆様に分り易くお伝え出来るか。少し挑戦。編集で、紙面を変えてみました。「…戌笑い、亥固まる、子は繁盛…」今年こそ良い年になりますように。(木)

議会広報常任委員会

委員長 赤木 俊二
副委員長 林 憲志
委員 木野山孝志
委員 横山 素子
委員 小川 善久

表紙の紹介



昨年の夏、台風で延期になった成人式が1月3日に行われました。
※表紙はその1シーン